

遼寧省シルバー産業交流視察団が来県、老人福祉施設を見学

遼寧省シルバー産業交流視察団一行(団長 遼寧省人民対外友好協会李承志副秘書長)が6月19日(日)来県。協会の寺尾巖副会長が運営する川崎市川崎区内にある特別養護老人ホーム「ゆとりあ」を視察

した。訪日団のメンバーは、瀋陽建築大学の経営学や建築学を専門とする教授や、不動産開発(管理)会社の社長や介護・リハビリの責任者など19名。協会側は、寺尾副会長のほか田中誉士夫

名誉顧問、上島保則副会長が出迎えた。寺尾副会長と宋副団長の挨拶の後、一行は施設を設計した(株)奥野設計の石塚幹夫常務取締役から説明を受けた。質疑では、設備(福祉機器)と設計の関係、国の施設基準、国等の支援金と施設の収支状況、入所者の1ヶ月の負担額、リハ

ビリの内容、医師との連携等多くの質問が出された。施設の見学では、入所者に配慮した設計・設備や入浴機器などの先進的な福祉機器に驚き、熱心に質問をしていた。昼食を兼ねた交流会は、川崎区内にある会員の岩美恵子氏が経営するレストラン「美遊JAPAN」で行

われた。美味しい料理、川崎市と瀋陽市との交流に長い間携わっている協会理事の岩和志氏の歓迎の言葉などで交流会は大いに盛り上がった。



湘南日中友好協会
会長 柳田秀憲

を超える訪問団が参加する予定です。

湘南日本中国友好協会は1975年に設立され藤沢市を中心に活動しています。そして1981年には、藤沢市と昆明市が義勇軍行進曲の作曲者・聶耳(ニエアル)先生の逝去の地と誕生の地という縁で友好都市となりました。

今年では、初学者対象の中国語教室、中国を中心とした外国の方対象の日本語教室、中国文化教室などを中心に活動しています。そして近年は昆明の大学生による日本語スピーチコンテストを開催し、今年で7回を数えます。優秀賞の副賞は日本研修旅行とし、彼らにこれからの日中の架け橋になつてもらいたいとの願いを

込めています。また、市議会議員などで構成される「ニエアル記念碑保存会」は、毎年7月17日の命日に鶴沼海岸のニエアル記念広場で「碑前祭」を市と共催し、中国大使館関係者を招き故人を偲んでいます。

さらに、この6月には各友好協会と商工会議所や医師会、体育協会などの有志による「姉妹都市・友好都市との交流を深める市民の会」が発足しました。藤沢市は昆明市のほか北米や韓国にも姉妹都市を結び青少年交流・文化交流等をおこなってきましたが、これに加え

て産業、医療、スポーツなど幅広い分野の交流をめざすというもので、これにより一層姉妹都市交流が活発化し日中友好が深化することが期待されます。

このように、藤沢市では民間と行政が連携しながら日中友好活動が活発におこなわれています。これからも日中友好がアジアの安定と発展をもたらし、人々が幸福になり、ひいては世界平和が実現するとの大志を胸に、ひとりひとりによる地域に根ざした活動に取り組んでいきます。



玄関前で記念写真



老人ホーム「ゆとりあ」での熱心な質疑